



あらすじ

20xx 年。大学教授が人間を自由にコントロールできる腕輪を使い、学生たちを次々と言いなりの奴隷にしていく。

最初は陸上部部長の山田、同じ研究室でレスリング部の亮、そして亮の親友でレスリング部の琢磨、、、。

奉仕、69、開発、アナニー、露出、亀頭責め、潮吹き、あへ顔、お仕置き、撮影、玉責め、軽メッシー、ナルシストオナ、便器、緊縛、後輩や彼女の前での晒し、強制エロレス等、、、3人は羞恥と屈辱の中でおとされていった、、、。

主な登場人物

田代（大学教授）：人間をコントロールできる腕輪を開発。真正のサディスト。熊のようながっちりとした体型。

斉藤琢磨（主人公）：3年。レスリング部部員。友達思いの情に熱い男。175 cm 筋肉質であっさりとした顔立ち。亮を脅しに使われ自ら腕輪を装着し、奴隷堕ちした。シロという名前を与えられる。

木村亮（琢磨の親友）：田代の「身体心理学研究室」の学生で、琢磨と同じレスリング部部員。無邪気な性格。180 cm 筋肉質で男らしい顔立ち。クロという名前を与えられる。教授の虜になりつつある。

山田俊樹（亮と同じ研究室の先輩）：陸上部キャプテン。人から自然と好かれるタイプ。田代の最初の実験体。田代にポチという名前を与えられている。既に教授の虜になってしまった。

西田：他大学レスリング部部員。琢磨と試合で何度か戦ったことがある。SNS に投稿された琢磨の痴態を見て、琢磨だと気づき、教授にお金を払い一度琢磨を陵辱したことがある。

惜別

銭湯での指導を受けた後、琢磨の股間はしばらく熱を帯びていた。あの時間を思い出し、もう一度あの時間に戻りたいと訴えているようだった。知らない男たちに次から次へとフェラさせられ、飲尿させられるという普通ならトラウマになるだろう記憶、、、それが琢磨の体を今でもほてらせる、、。

（あんなことして、、、俺、、、あんなに感じて、、、やべ、、、また、、、。）

自分が変態に落ちていくのを実感しながら、琢磨は今日の試合に向かうための準備をしている。今日は年に一度のレスリングの大きな大会がある。各大学がプライドをかけて挑むこの大会。琢磨は気合十分だった。教授から「今日は西田君の命令に従え。」と指示がくるまでは、、、。

大会では初戦で西田の大学と団体戦で対戦。7階級代表選手同士が戦い、いつもであれば、琢磨達の大学が勝つが、今日はなんと1-6で敗北。初戦で散る結果となった。琢磨と亮、二人のアナルにビール瓶を突っ込んで爆笑していた二人の後輩も各階級の代表として出場したが、四人とも敗北。全日程終了後、部員たちはあまりのふがない結果に男子更衣室で涙を見せるものもいた。

「く、、、初戦敗退、、、なんて、、、最悪だ、、、。」

「また、、、やりなおそう、、、。」

そう励ましている琢磨の大学の部長の近くで着替えている西田。

「すいませんねえ、、、今回はうちが勝たしてもらいました、、、なぜか、、、そちらの選手、、、調子が悪かったみたいですね、、、。」

「次は、、、うちが、、、勝つ。」

そう自分に言い聞かせるように言う琢磨の大学の部長に聞こえるか聞こえない

かの声で、「無理だよ、、二度とな、、、。」とつぶやく西田。

琢磨の大学の選手たちが、「そういや琢磨いなくね?」「落ち込んでどっかで泣いてるんだろ、そっとしとこうぜ。」そんな会話をして更衣室を退出していく。残っているのは西田と、西田の後輩の二人だけ。

「先輩、それにしても今日本当に相手調子悪そうでしたね。」

「そりゃあそうだろう、あいつらは俺らに勝っちゃいけないんだからな。」

「どういうことですか?」

「まあ、もう人も来ないだろうし、いいか。」

そういうと、西田はあるロッカーのカギをあける。そこには猿轡をされ、乳首用バイブ、アナルバイブ、首輪をつけられ、緊縛された琢磨の姿。

「ええ!?これって、、、斉藤さん、、、?な、、なんで、、、。」

「くくく、、、こいつは俺の言いなりの玩具なんだよ。かわいいだろ。こいつには俺の大学の試合では全部負けるように指示している、今日の団体戦のオーダーもこちらにつつぬけ、相手の苦手な選手があたるように部長にこちらのオーダーを組み替えてもらったんだ。」

「すげえ、、、あの斉藤さんが、、、まじかよ、、、。」

「ふぐうう、、、ううう、、うう、あ、、うう、、、あ、、、あ、、ううう、、、。」

涙を流しながらペニスをびくつかせている琢磨。琢磨の試合が終わってすぐにここに閉じ込められ、すでに数時間経過している。ペニスから大量のよだれをたらし、喘いでいる。

「斉藤さん、、レスリング強くてカッコいいと思っていたのに、、こんなドMの変態だったなんて。」

「そうさ、こいつは自分の性欲のためにチームを裏切るクズやろうだ。」

西田はそう愚弄しながら琢磨のペニスをしごきあげる。

「ふぐう、、ふうう、、うう、、ふう、、あ、、ふう、、ふうう、、あ、、♡」